



二回の誘いに  
一回だけ  
合意して  
抱かれる彼が  
淫らすぎる

俺の恋人の千秋にお誘いをする、三回に一回にしか応じてくれない。仕事人間だから「明日早い」「疲れた」と断るのがほとんどで、しつこいと「生理だから」と真顔で返答。

そりゃあ、断られるのは辛い、ノー問題。

はじめは「おい、やるんだろ」とそっけないものを、ベッドに乗ると俺を抱きしめ、しきりに唇を押しつけてくる。

目をつむって、積極的に舌をからませ、胸を撫でると「んん、ふう……」と喘ぎを漏らし、腰を押しつけてぐりぐり。

「さっさとやれよ」と投げやりだったのが嘘のようで、両乳首をつねって引っぱれば、早急に「くう、んんん！」と射精。

ベッドに倒れて、余韻に浸り「はあ、あ、あう・・・」と震えながら、潤んだ瞳をむけてくる。

涎を垂れ流しに「牧い・・・」と呼ぶのに応じて、これでもかというくらい愛撫しまくり。

胸を吸いつつ、濡れた股をぐちよぐちよ、しゃぶりつつ、尻の奥を指でかき回してぬちゆぬちゆ。

ふだんは不愛想で塩対応、すこしサドっ気がある千秋が、ベッドの上で俺にかわいがられると、赤ちゃん返りしたように初心で幼気な反応を。

じつくりゆつくりと愛撫をするのは、そのギャップ萌えを味わうため。

今にしろ、しゃぶっている俺の頭を指でこそがし「はあう、んああ、  
牧、牧いい・・・！」と泣きじやくるのが、いじらしいったらない。

そのうち頭を爪で引つかきだして「くあ、ああ、牧い、も、もお、俺、  
俺え、んくあああ！」とおねだりする半ばで四回目の射精。

耳や首まで肌を赤く染めあげ、濡れた目で物欲しそうに見てくるのに、  
加虐心が疼くも、ぐっと堪える。

いじめるのは趣味でないし、プライドが高い彼が甘えてくるのは、エ  
ッチのときだけ。

ふだんは俺のほうが頼りがちだから、とことん甘やかしたいところ。

指をぬくと、彼の呼吸が整うのを待ち、剥きだしにした俺のを徐徐に

埋めこむ。

奥まで届いたら、反応を窺いつつ、緩急をつけて腰を打ちつけては引いての繰り返えし。

「はぐう、ふあ、おおう！」とうれしそうに悶えるも「牧い、牧い  
い・・・！」と呼びつけ、腰をくねくね。

「もつと、もつとお、牧のおちんちんでえ、俺を、ぐちやぐちや、し  
てええ！」

まあ、いじめなくても、もどかしさに耐えきれず、おねだりをするの  
だが。

「まったく千秋はかわいいな」と囁いてから腰を強打すれば「いい、

いいよお、牧い！」と嬉嬉として鳴き、狂ったように乱れて。

「牧の、おちんちん、しゅきいい！うんああ！ま、牧のでえ、お腹、ぱんぱんしてえ、ああ、ああ、おおおふう！」

この日のためにナオ禁した甲斐あり、千秋が求めるまま、三回も注ぎこむと、体力が尽きて二人でばたんきゅー。

目が覚めたところで「うっとおしい」と突き放し、立ちあがる千秋。昨晚の見る影もなく、いつものクールなイケメン。

「三回に一回が終わったかー」とため息をつくも、部屋をでていく前に千秋が「今夜、ホテルのディナー予約したから」と。きよんとすれば「お前の誕生日だろうが」と舌打ちをして退室。

いつもは、つづけてエッチしてくれないのが。

俺が生まれてきた日を祝って、二日連続抱かせてくれる彼を一生、愛  
そうと思う。





